

◆◇—— 感染症に関する情報 ——◇◆

【管内の感染症の発生状況等について】

○ 管内の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の定点あたり報告数は、5月以降増加傾向が続き、**31週には10を超える値**となりました。32週では前週の値から減少しましたが、流行は未だ続いており、注意が必要です（管内の定点あたり報告数は別表グラフを併せてご覧ください。）。夏休み期間中は、特に人が集まる機会が増えますので、手洗い・うがいなどを、改めて心がけましょう。感染した場合、発症後5日間や、症状軽快後24時間程度は、他人に感染させるリスクが特に高く、外出を控えることが推奨されます。感染の可能性が考えられる場合は、マスクを着用する、人の集まる場所に行くことを避けるなど、対策を行いましょ。

★新型コロナウイルス感染症の報告数が増加しています（感染症情報センター）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/kikaku/covid-19.html>

○ 管内にて、**レジオネラ症**が散発しております。レジオネラ症は、主に、**循環式浴槽、ビル屋上の冷却塔、噴水、加湿器**などから発生するレジオネラ属菌に汚染されたエアロゾルや、**土ぼこりが原因となることがあり、例年夏季に報告数が増加します**。病型には、全身倦怠感などの症状に始まり、**高熱、呼吸困難**などがみられるレジオネラ肺炎と、**発熱などが一過性にみられるポンティアック熱**があります。特に免疫機能が低下した状態などでは、レジオネラ肺炎を発症する可能性があり、適切な治療がなされなかった場合は急速に症状が進行することがあります。感染源となる、浴槽、シャワーヘッド、加湿器などを清潔に保つよう心がけましょう。

★レジオネラ症について（衛生研究所）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/topics/legionella.html>

★公衆浴場、旅館等の入浴施設におけるレジオネラ症防止対策（茨城県生活衛生課・環境衛生グループ）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/seiei/kankyo/seiei/seieitopikkusu/legionella/legi.html>

○ 主な感染症の定点あたり報告数

| 報告週 | COVID-19 | | A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎 | | 咽頭結膜熱 | | 感染性胃腸炎 | | 手足口病 | |
|-----------------|----------|-------|-------------------|------|-------|------|--------|------|-------|-------|
| | 管内 | 茨城県 | 管内 | 茨城県 | 管内 | 茨城県 | 管内 | 茨城県 | 管内 | 茨城県 |
| 28週 (7/8~7/14) | 6.64 | 10.83 | 1.14 | 4.17 | 0.00 | 0.53 | 8.43 | 3.31 | 18.43 | 11.76 |
| 29週 (7/15~7/21) | 7.82 | 13.30 | 1.00 | 3.67 | 0.00 | 0.31 | 2.86 | 2.11 | 11.00 | 9.96 |
| 30週 (7/22~7/28) | 9.73 | 14.80 | 1.14 | 5.01 | 0.43 | 0.49 | 4.29 | 2.15 | 10.86 | 10.57 |
| 31週 (7/29~8/4) | 10.82 | 14.28 | 1.00 | 4.24 | 0.57 | 0.45 | 3.14 | 2.11 | 7.14 | 6.92 |
| 32週 (8/5~8/11) | 5.91 | 13.23 | 1.14 | 2.63 | 1.43 | 0.60 | 4.43 | 2.13 | 4.57 | 4.44 |

○ 全数把握感染症の発生届（管内）

| 報告週 | 二類感染症 | 三類感染症 | 四類感染症 | 五類感染症 |
|-----------------|-------|------------|----------|--------|
| 28週 (7/8~7/14) | | 腸管出血性大腸菌 1 | レジオネラ症 1 | |
| 29週 (7/15~7/21) | | | レジオネラ症 1 | 急性脳炎 1 |
| 30週 (7/22~7/28) | | | | |
| 31週 (7/29~8/4) | 結核 2 | | | 梅毒 1 |
| 32週 (8/5~8/11) | | | レジオネラ症 1 | 梅毒 1 |

★茨城県感染症流行情報週報（2024年 第32週）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/weekly/documents/2024idwr32.pdf>

★茨城県感染症流行情報月報（2024年7月号）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/std/documents/2024mrp07.pdf>

★茨城県衛生研究所における病原体検出情報（2024年7月号）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/microbe/documents/202407kensyutu.pdf>

【エムポックス（サル痘）緊急事態宣言について】

- 世界保健機関（WHO）は、8月14日、アフリカのコンゴ民主共和国を中心に感染が拡大しているエムポックス（サル痘）について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言しました。2024年、コンゴでは15,600件以上の感染例、537人の死亡者が報告されています。過去に報告のなかった周辺国においても発生がみられており、アフリカ内外での感染拡大が懸念されています。エムポックスは、感染した人や動物の飛沫・体液・皮膚病変を介した飛沫・接触感染があり、症状としては、発熱、頭痛、リンパ節腫脹のほか、発熱の1～3日後の発疹などがあります。国内では、2024年31週までに15件の報告があります。

★エムポックスについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html

★サル痘検査における検体の採取と保存（感染症情報センター）

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/documents/saruto_2.pdf

★エムポックス診療の手引き第2.0版

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/tuuchi/documents/tebiki.pdf>

【日本脳炎について】

- 日本脳炎は、ブタなどの体内で日本脳炎ウイルスが増殖した後、そのブタを刺した蚊がヒトを刺すことにより感染します。茨城県では、日本脳炎ウイルスを保有した蚊の存在を間接的に知ることができる指標として、県内で飼育したブタの血清について、夏期に日本脳炎ウイルスに対するHI抗体価を測定しています。2024年7月下旬に採取した検体では、抗体が検出され、保有率は40%でした。県内で日本脳炎ウイルスを保有する蚊の存在が推測されることから、感染予防のため、予防接種や蚊の対策を行いましょう。

★感染症流行予測調査（日本脳炎・ブタの抗体保有状況）の結果について（感染症情報センター）

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/kikaku/kansensyoryuukouyosokutyousa_nihonnouen.html

★日本脳炎に注意しましょう（衛生研究所）

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/topics/2024japanese_encephalitis.html

【梅毒が急増しています】

- 梅毒の報告数が、2022年以降、全国、茨城県ともに急増しています。梅毒とは、主に性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染する感染症です。妊娠中に梅毒に感染すると、死産や早産のリスク、生まれてくる子どもに障害をもたらすリスクがあります。症状が現れたり消えたりする特徴があり、感染に気付かない場合もあることから、予防には、性交渉の際の適切なコンドームの使用が大切です。皮膚や粘膜に異常が認められた場合は、医療機関を受診しましょう。保健所では、無料・匿名での検査（事前予約制）や相談を行っております。詳しくは、筑西保健所ホームページをご覧ください。

★HIV、クラミジア、梅毒検査のご案内（筑西保健所）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/chikuho/hoken/shimohc/sodan/sodan-aids.html>

★梅毒が増加しています！（衛生研究所）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/topics/syphilis.html>

